

全

六

芳澤公使へ
本大会は日露交渉の現情を遺憾とし、利権の要求を緩和して、即時露国承認並に樺太撤兵を断行せられ人事を要す。

右の打電に対し、ロシヤ公使カラハン氏は直に左の返電を同盟に送れり。

電文

カラハン氏より
現在では日露国交回復は交渉開始當時に此して其望み少なくなつた。双方の主なる争点は日本の資本家を獲得せむと欲する利権の地域問題である。露国は日本に油田四割、他国に樺柳の六割を与へて日本に優先権を認めためたのである。若し此の會議が破裂すれば其原因は権利地域問題か或は日本が結末期前に

止樺太より撤兵を肯んじない馬である。
余は大會が露國無産階級に送れる厚意を感謝し之を

直ちにモスコウに電送するものである。
以上の電文を交換したが、幸か不幸か日本の公使芳澤氏は遂に返電を與へなかつた。然し今日と存つて見れば芳澤氏はシヤを承認したのだから、之が其時の返電であろう。我等は過去一年を回顧して尚なすべし、其時の残れしこと、又なし遂げたる事の不備尋ふことを感じる。然しあの難局に当りし時代なりし事を併せて考へらるれば其の不完全を許容し、人事を望む。

五組合除名問題報告

大正十三年十月十五日開催せる我関東同盟第三回大会に於て不詳なる逸席問題が惹起され、其後引續いて紛争起り

七